

## 「言語活動を活用した小学校音楽科授業の展開と評価」

### 要 約

小学校音楽科において、具体的な言語活動を盛り込んだ学習指導案を作成し、検証授業を行った。学習のねらいが明確化されることで、子どもたちの言語活動活発化、学習の深化と学習内容の習得が、わずかな期間での検証であったが顕著であった。

### I はじめに

新小学校学習指導要領は平成23年度から全面的に実施されているが、

- ① 教育基本法改正等で明確となった教育の理念を踏まえ「生きる力」を育成すること
- ② 知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視すること
- ③ 道徳的教育や体育などの充実により、豊かな心と健やかな体を育成すること

を基本的なねらいとしている。

新学習指導要領においては、このようなねらいを達成するための全教科に共通するポイントとして、「言語活動の充実」、「伝統や文化の尊重」、「道徳教育との関連」などが挙げられている。子どもたちの個性を生かすために、今までにない他教科との関連が打ち出され、指導に当たっては今日的な教育課題に対して積極的な姿勢が求められている。また、発達の段階を踏まえた学習の系統性も重視されている。

音楽科の学年の目標及び内容は次のような観点に基づいて設定されている。

- ① 音楽活動に対する興味・関心・意欲を高め、音楽を生活に生かそうとする態度、習慣を育てること
- ② 基礎的な表現の能力を高めること
- ③ 基礎的な鑑賞の能力を育てること

これらの目標の達成に向けて、新たに設けられたものが〔共通事項〕である。これは表現及び鑑賞の能力を育成していくために共通に必要な指導内容であり、「聴き取る力」「感じ取る力」をそれぞれの活動の中心として位置付け知的理解を促す働きを持っている。

この〔共通事項〕を言語活動によって生きて働く力に変え、表現領域はもちろんのこと、受身になりがちであった鑑賞の学習活動にも生かすことで、子どもの能動的で創造的な学びが促進されると考えられる。

そこで、表現（歌唱）と鑑賞の領域について〔共通事項〕として挙げられている「音楽を形づくっている要素」を聴き取り、感じ取らせるための効果的な言語活動の在り方について、大村市内の2つの小学校の協力を得て、授業を通じた研究を行った。

### II 研究の概要

#### 1 主題設定の理由

これまで多くの先生方の工夫された授業を見てきた。子どもたちは生き生きと活動しており、それで十分ではないかとも考えていた。

ねらいに「表現の工夫」を掲げた、ある合唱の授業で次のようなことがあった。

子どもたちは活発に班別活動を行っていた。それぞれの班にリーダーがおり、優秀なピアニストも揃っていた。小さなホワイトボードが各班に割り当てられ、協議を伴う学習活動だった。

子どもたちからは、

- ・もっと元気な雰囲気で歌う
- ・歌詞の意味が伝わるように歌う
- ・ハーモニーをきちんとする

などの意見が発表され、授業の最後に班ごとの発表会があった。

しかし、発表を聴いてみると、すべての班がほとんど同じ内容の合唱という印象しか残らなかった。確実な音取りに終始したと感じられた授業内容だった。言語活動は活発に行われていたはずであるのに「表現の工夫」の違いが見られなかったことに大きなショックを受けた。

これは活発な言語活動の内容が、何を感じさせ、何を表現させたいのかという部分において、方向性と具体性に欠けていたことが原因ではないかと考えた。つまり、元気な雰囲気とはどのようなものか、「速度」や「強弱」を変化させると曲はどのように雰囲気が変わるのかなど、「音楽を形づくっている要素〔共通事項〕」についての子どもたちの気付きの整理や理解がなされないまま、授業が進められていたことに問題があったのである。これでは、子どもたちは曲に対するイメージや思いをどのように表現したらよいかかわからないのも当然かもしれない。

そこで、〔共通事項〕を「言語活動」を通じて身体に染み込ませ、音楽のよさに気付き感動する、つまり子どもたちが「音楽をわかった」と感じることができるような、学びのある活動をするための「言語活動の活用」を研究することにした。

## 2 音楽科における言語活動

学習指導要領解説等を参考に、「言語活動」についてその重要性和留意点を整理した。

### (1) 重要性

音楽科における言語活動とは、表現及び鑑賞の活動において、楽曲から感じ取ったこと（感想・雰囲気）について、言葉（話し言葉・書き言葉）に表すことで、そう感じ取った理由を見いだす活動である。様々な音楽体験を通して理解してきた基礎的・基本的な知識・技能を具体的な言葉で考えたり他人に伝えたりすることで、感じ取ったこと（知覚や感受）を表現したり共感したりすることに繋げること（音楽科の中心的な活動）ができる。

この活動を質的に高めるためには、コミュニケーションに視点において、自分や集団の考えを発展させ、より豊かな表現の工夫ができるように、すべての音楽活動において〔共通事項〕と「言語活動」を関連させ知識や技能の活用を目指して指導することがたいへん重要である。

### (2) 留意点

音楽科においては、音楽のよさや美しさを味わうことが大切であって、音楽用語を語彙として活用できるようにすることや「言語活動」そのものが目的ではないことは常に留意しなければ名らない。

## 3 研究の目的と到達目標

上記の整理を経て、次のような研究の目的・到達目標を定めた。

### (1) 研究の目的

「言語活動の充実」は小学校新学習指導要領にも特記されている。鑑賞領域のみならず表現領域においても、この言語活動を〔共通事項〕と関連付けて活用することで、児童の「知覚」と「感受」、能動的で創造的な活動を導き出すことができると考えられる。言語活動を手段として用いた授業展開や評価を研究することにより、

教科の目標である「豊かな情操」育成に資することが目的である。

(2) 到達目標

- ① 表現分野と鑑賞分野において、言語活動を通して指導目標の達成を図る学習指導案をそれぞれ1つ以上作成。
- ② 研究授業（複数回実施）後の児童アンケート等で、満足度と理解度が70%以上。

4 研究の仮説

仮説1 [共通事項]に挙げられている「音楽を形づくっている要素」のいくつかを段階的に表示し、それらの要素を変化させることで表現の工夫ができることを、言語活動の活用によって、理解させ、体感させることができる。

仮説2 鑑賞のねらいを[共通事項]とリンクさせ、感じ取った要素やその要素から生まれたイメージや思いを、言語活動の活用によって、根拠をもって分かりやすく発表したり、他人と共感しあうことで、鑑賞の能力は飛躍的に高まる。

5 研究の構想

(1) 計画

- ① 調査「小学校音楽科の授業に関する課題や悩み」実施、問題検証<Ⅲの1>
  - ② 研究協力委員（研究協力校）の決定
  - ③ 研究協力委員への趣旨説明、研究分野（表現・鑑賞）の決定
  - ④ 研究校での授業参観、研究計画策定
  - ⑤ 改善授業実施
  - ⑥ 授業検証、仮説の検証と評価
- } <Ⅲの2、3>

(2) 授業の検証方法

- ① 学習指導案に言語活動の項目を記載しない場合（通常授業）の授業実施と検証  
授業VTRを撮影し、児童の取組状況（興味・関心・態度）や音楽理解に繋がる言語活動の状況、ねらいの達成度や教師の発問等について、客観的視点で検証と評価を行う。
- ② 言語活動の項目や発問内容、授業内容に遅れ気味の児童への支援などを記載した指導案を使用した場合の授業の実施と検証  
①と同様に授業VTRを観て検証し評価する。
- ③ ①②について児童の作成したワークシートや授業後の聞き取り調査により内容の理解度とそれから生じる授業満足度等を検証する。

Ⅲ 研究の実際

1 主題設定の根拠となる調査

平成21、22年度に実施した音楽科の研修講座、及び出前講座受講者の提出資料や事後アンケートを基に、現場の教師が授業についてどのような課題や悩みを持っているかを整理した結果、次のような結果となった。

（アンケート数 86、平成23年1月集計）

表現領域

①評価の観点/歌唱分野	課題や悩みと感じている内容
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業のヤマの作り方</li> <li>・ 児童の集中力の維持のさせ方</li> </ul>
音楽表現の創意工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音楽記号や歌詞を重視した表現の工夫</li> <li>・ 学び合いを活用した音楽表現の指導法</li> </ul>
音楽表現の技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音程が取れない児童の指導、効果的な音取りの方法</li> <li>・ 読譜や階名唱の指導</li> <li>・ 発声（変声期を含む）指導</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 客観的な評価方法</li> </ul>

②評価の観点/器楽分野	課題や悩みと感じている内容
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業のヤマの作り方</li> <li>・ 楽器の選び方や担当楽器の決定方法</li> </ul>
音楽表現の創意工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音楽記号を重視した表現の工夫</li> <li>・ 学び合いを活用した音楽表現の指導法</li> <li>・ 良好なアンサンブルの作り方</li> </ul>
音楽表現の技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ タンギングや運指の指導</li> <li>・ 読譜指導</li> <li>・ ハーモニー指導</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教師の演奏スキルについて</li> </ul>

③評価の観点/創作分野	課題や悩みと感じている内容
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 題材選択の方法</li> <li>・ 児童の集中力の維持のさせ方</li> </ul>
音楽表現の創意工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音楽記号や歌詞を用いた音楽づくりの指導法</li> <li>・ 学び合いを活用した音楽づくり（ふしづくり）</li> </ul>
音楽表現の技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 即興的な音楽づくりの指導法</li> <li>・ 記譜や記録の方法</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教師の指導スキルについて</li> </ul>

鑑賞領域

評価の観点	課題や悩みと感じている内容
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業のヤマの作り方、授業の展開方法</li> <li>・ 児童の集中力の維持のさせ方</li> <li>・ 教材分析の方法</li> </ul>
音楽表現の創意工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 表現領域との関わりを持たせた指導法</li> <li>・ 学び合いを活用した鑑賞指導の在り方</li> </ul>
鑑賞の能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 聴き取る力と感じ取る力の区別と指導（知覚と感受）</li> <li>・ 表情や身体表現の指導法</li> <li>・ 文章表現の指導法</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 客観的な評価方法</li> <li>・ ワークシートの効果的な活用の仕方</li> <li>・ 感受の評価方法</li> </ul>

これら課題や悩みのほとんどは「言語活動の活用」を図ることで解決できると考えられる。

2 表現領域の授業

(1) 言語活動の内容を記載した学習指導案

※活動の詳細が分かるように指導案中に写真を挿入した。

実施：平成23年12月9日（金）第1校時

対象：富の原小学校6年4組 34名

指導：教諭 吉田 裕子（研究協力員）

1 題材 豊かな表現を求めて

2 教材 「明日を信じて」（2部合唱） 作詞/作曲：小林真人

小学音楽 音楽のおくりもの6（教育出版社）



3 本時の指導（5/5）

(1) 本時のねらい 曲の山場を意識して、盛り上がる歌い方の工夫をして合唱する。

(2) 本時の評価規準 ・パート別練習に、めあてをもって意欲的に取り組んでいる。

・音の重なりを感じて2部合唱ができる。

(3) 本時の展開

時間	学習活動	学習内容	言語活動	教師の支援（○）と評価（☆）
導入 10分	1 既習曲の歌唱	◇発声練習をし、歌唱曲「つばさをください」「ビリーブ」を生き生きと表現する。	・口の開け方、喉の開き方、眉の上げ方などを確認させる。（発問、全員で確認）	○響きのある歌声で歌うように声掛けをする。 ☆意欲・関心・態度
	2 めあての確認	◇前時からの流れを意識してめあてをもつ。		
曲の山場を盛り上げるためにどのように歌ったらよいか考えよう。				
展開 前半 20分	3 パート練習 ①歌詞の確認  ②パート練習 	◇詩の山場（作者が強く訴えたい箇所）の確認をする。  ◇めあての確認をした後、リーダーの指示にしたがって練習する。	・歌詞の朗読を通して歌詞の内容から曲の山場を探す手がかりを理解させる。（発問・説明・確認） 「1番2番とも共通した歌詞を用いている、題名が入っている」 ・自由な意見発表や他の発言を聞いて共感する態度を育成する。 ・実際に歌唱して、雰囲気話し合う。	○パート練習でどのような話合いをするかの確認（リーダーとの打合せ）をする。 ○歌詞の内容からも曲の山場を予想できることを確認する。 ○拡大歌詞を全員で見ながら、一緒に考えさせ確認させる。 ○曲の山場を盛り上げるために、山場の前の部分での発声や気持ちの持ち方が大切であることを気付かせる。 ○各パートで助言する。

時間	学 習 活 動	学 習 内 容	言 語 活 動	教師の支援 (○) と 評価 (☆)
展開 後半 10分	③話し合い (言語活動)	◇話し合いの中で、盛り上げる方法に気付く。	「クレッシェンドをしたら・・・」「フォルテを感じて・・・」 「クレッシェンドするためには、その前が強すぎではうまいかない」	○ヒントを与える。 ・クレッシェンドを意識することで、山場のフォルテを表現する。 ・身体全体を使った発声で強く響かせる。 ・歌詞の内容からウの部分盛り上げる。 ・話し合いで出たフォルテ、クレッシェンド、休符、音符の長さなど、共通事項に関する発言を大切にさせる。 ☆意欲・関心・態度 (積極的発言、表情) ☆音楽的表現の工夫 (身体を使ったクレッシェンドやフォルテの表現)
	4 合唱練習	◇各パートでの意見を発表する。 ◇他のパートを聴き合いながら2部合唱する。 ◇場面ごとの歌い方を工夫する。	・クレッシェンドの理解 (共通事項の言葉を使用して) とねらいとの結び付けをする。	○パートで出た意見やその効果について確認させる。うまく説明できない場合には教師がフォローする。 ○歌詞を考えて盛り上げさせる。 ○語りの部分、掛け合い、音の重なりなど、歌い方の違いを意識させる。 ○腹式呼吸でクレッシェンドをして曲の山場につなげる歌い方を指導する。 ☆音楽表現の技能 (2部の響き、曲の山場の表現)
	5 振り返り	◇山場の前の4小節の盛り上げ方を練習する。	◇学習カードに本時の活動の自己評価を記入する。	・他人に分かりやすく簡潔に説明 (強弱など音楽用語を用いて) させる。 ・適切な言葉、用語を使用させ、反省や自己評価を記入させる。
まとめ 5分				



## (2) 授業の工夫による児童の変化と教師の気付き

### ア 工夫

#### ①めあてについて

児童の発言に焦点をあてた言語活動の活用を意識することで、めあては非常にシンプルになり〔共通事項〕との関連が一層図られた。このことで、学習活動と学びがねらいに向かったものになり、充実した授業の展開につながった。

#### ②評価について

1 単位時間の授業での評価項目を絞り込んだことで、授業の円滑化が図られ、学習効率は高まった。

- 授業内：意欲・関心・態度を主に評価
- 授業後（学習カード）：音楽的表現の工夫を主に評価

※ただし、題材、単元全体を通しては、すべての観点において評価が実施されている。

#### ③言語活動について

学習指導案に活動の中心となるべき具体的な言葉掛けや支援の内容が記載されたことで、ねらいに向かった言語活動が促進され、活動と学びのバランスがよい授業展開となった。さらに〔共通事項〕と関連付けて意識的に言語活動が活用されたため、子どもたちの授業内容の理解度は高まった。また、発言された意見や指導内容のまとめが黒板に貼られた拡大楽譜に分かりやすく記入されたことで、児童全員の理解の深化が図られた。

#### ④班活動について

1 年間で3 曲程度、特にハーモニーを伴う楽曲において計画的に実施することで、リーダーも育ち、児童自ら工夫するようになった。

### イ 児童の変化（授業における児童の発言内容の変化）

通常の授業	言語活動を意識した授業
「声を大きく出してください。」 「歌詞の意味を考えて頑張ってください。」 「声は出ているので、もっと頑張ってください。」	「姿勢をよくして、声を飛ばすように歌ってください。」 「十分なクレッシェンドをすることで、歌詞の意味を表現することができるので、身体を使って多くの息を出しましょう。」 「クレッシェンドの前は音量を落とした方がうまくいくと思います。」 「クレッシェンドのノリ（気分）をフォルテにつなげるように歌いましょう。」

### ウ 教師の気付き

学習活動が活発化しただけでなく、リーダーとともによい音楽づくりを行いたいと考える児童が増えたようだ。言語活動は以前から活用していたが、学習指導案に記載した上で授業を行うと、より計画的な発問が行いやすくなり、遅れがちな児童への支援策も事前に準備できるようになったと感じている。また、めあてと関係の

ない思いつきの発言が抑制でき、リーダーからの指示も整理されたことで、パート練習の充実が図られたと感じた。

#### エ 成果と課題

仮説1について、VTRによる客観的な検証ができた。

今回の授業では、[共通事項]の音楽を形づくっている要素のうち、「強弱」に絞って学習活動を行ったが、「旋律」や「音の重なり」など、段階的に表現の工夫を学習させていくと、体験によって、音楽のよさにより気付くことにつながると思われる。

※後日に実施された授業では、上記の内容も盛り込んだ実践をされ、「音楽表現の技能」の指導においても効果があることが確認できた。



### 3 鑑賞領域の授業

#### (1) 言語活動の内容を記載した学習指導案

※活動の詳細がわかるように指導案中に写真を挿入した。

実施：平成23年12月19日（月）第6校時  
 対象：大村小学校4年3組 36名  
 指導：教諭 藤田 ゆか（研究協力員）


1 題材 いろいろな国の音楽に親しもう

2 教材 「サンバの音楽 ほか」  
 小学音楽 音楽のおくりもの4（教育出版社）

#### 3 本時の指導（5/5）

- (1) 本時のねらい いろいろな国の音楽に親しみ、リズムや楽器の特徴を感じ取る。  
 (2) 本時の評価規準
- ・リズムや楽器の音色を聴き取り、演奏のよさに気付いて楽しく聴いている。
  - ・音楽の特徴を、共通事項や感想を交えて、具体的な言語で表すことができる。

#### (3) 本時の展開

時間	学 習 活 動	学 習 内 容	言 語 活 動	教師の支援（○）と評価（☆）
導入 5分	1 既習曲の歌唱  2 めあての確認	◇既習曲「歌をとどけよう」 「世界にひとつだけの花」を歌う。		☆意欲・関心・態度
世界のいろいろな楽器やリズムを楽しもう。				
展開 前半 10分	3 前時の復習 ①鑑賞  (知覚を中心) 	◇ランダムに流れてくる「サンバの音楽」「杖鼓の演奏」「フラメンコの音楽」を聴き、特徴をとらえて、どの音楽かを当てる。	・話し合い活動、発表 ・曲名判断の理由 サンバ：リズム、太鼓、アゴゴ（ラテンパーカッション）など 杖鼓：太鼓、かけ声など フラメンコ：速さ、ギター、太鼓、手拍子など	○前時のメモを参考に、曲名について、理由を付けて答えるようにさせる。 児童が答えやすいようにフォローも行う。 ☆鑑賞の能力（発問）
展開 後半 20分	②ワークシート記入 (知覚・感受)	◇それぞれの音楽の特徴と聴き取った内容に対する感想を書く。	・単語だけの記入に ならず、理由づけも行いながら簡潔な文章を書かせること。	○もう一度聴いて、リズムや楽器の特徴を確認させる。 ☆関心・意欲・態度 (表情や身体の動き) ☆鑑賞の能力（ワークシート）

時間	学 習 活 動	学 習 内 容	言 語 活 動	教師の支援（○）と評価（☆）
まとめ 10分	③DVD鑑賞	◇サンバとフラメンコのDVDを鑑賞する。 ◇新しい気づきがあれば、ワークシートに書き加える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>映像を観ながらの自由な発言や話し合いを行う。</li> <li>新しい気づきについての発表をする。</li> <li>他人の意見に耳を傾け、聴き取り内容の確認を行う。</li> </ul>	<p>○DVD鑑賞において、知覚するポイントの説明を行う。</p> <p>☆関心・意欲・態度</p> <p>☆鑑賞の能力</p>
	④特徴の整理	◇音楽ごとの特徴の整理について教師の説明を聞き、ワークシートを完成させる。		<p>○3つの音楽に関する特徴（楽器・リズム）の整理をしっかりと行う。</p> <p>○気づきが遅れ気味の児童のフォローも行う。</p>
	4 表現分野との関連付け ①歌唱曲の鑑賞	◇歌唱曲「おどれサンバ」を鑑賞する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>リズムについての気づきを発表させる。（先ほど聞いたサンバとこの曲のリズムや曲の雰囲気似ていることに気付くか）</li> </ul>	<p>○曲名を告げずに鑑賞させ、サンバのリズムを感じ取らせる。</p> <p>☆興味・関心・態度（表情や身体の動き）</p> <p>☆鑑賞の能力（発言）</p>
	②歌唱	◇範唱CDに合わせ、歌唱する。 ◇身体でリズムを感じながら、旋律を覚える。		<p>○リズムや雰囲気に関する整理を確実に進行。</p> <p>○教師も児童と一緒にリズムに合わせ、身体を揺らしてみる。</p> <p>○リズムを感じ、身体を揺らしながら歌唱させる。（音程がうまく取れない児童がいても、全員にリズムだけはしっかり捉えさせること）</p> <p>○ピアノで主旋律を弾く。</p> <p>☆興味・関心・態度（表情や身体の動き）</p>



## (2) 授業の工夫による児童の変化と教師の気付き

### ア 工夫

#### ①評価について

1 単位時間の授業での評価項目を絞り込んだことで、授業の円滑化が図られ、学習効率は高まった。

- ┌ 授業内：意欲・関心・態度を主に評価
- └ 授業後（ワークシート）：鑑賞の能力を主に評価

※ただし、題材、単元全体を通しては、すべての観点において評価が実施されている。

#### ②言語活動について

学習指導案に活動の中心となるべき具体的な言葉や支援の内容が記載され、無駄のない授業が展開されたことで、ねらいに向かった言語活動が促進され、活動と学びのバランスがよい授業展開となった。さらに〔共通事項〕と関連付けて言語活動が活用されたため、子どもたちの授業内容の理解度は深化した。

また、発言された意見や整理事項は簡潔に板書され、ワークシート完成の手がかりとなるキーワードも特に目立つ工夫がなされていたため、知覚に関する自己評価も容易となり、児童全員の活発な言語活動に繋がった。

#### ③表現分野との関連付けについて

鑑賞し知覚したリズムについて、その授業内で実際に歌唱表現によって体得させたことで、より一層の学習の定着が見られた。

また、CD の鑑賞により知覚と感受を深めた後に VTR 鑑賞を行うプログラムは、興味や関心を高め、身体表現の行い方やリズムの感じ方を児童が学ぶという意味において非常に効果的で、歌唱表現においても学んだ内容が十分に生かされていたと思われる。

### イ 教師の気付き

言語活動を意識したことで、内容の精選ができ、児童にじっくりと曲を聴かせたり、十分な時間をかけて意見発表をさせることができた。友人の意見に耳を傾けさせることで、自分の考えの正誤だけでなく、その根拠についても考えさせることができた。

根拠を考えイメージしながら音楽を聴くという姿勢の育成に十分な時間をかけられたので、多くの児童が身体表現を伴って鑑賞するなど、ねらいである「楽器・リズム」についての興味や関心が高まり、理解は深まった。

### ウ 成果と課題

仮説 2 について、VTR による客観的な検証ができた。

この小学校の音楽の授業は、教室に机を置かない自由な空間での授業であるため、班で輪を作って協議（班の中で全員が意見発表）をさせたり、班ごとにリズムに合わせた身体表現を工夫させるなど空間を生かした学習活動を試みると、言語活動はさらに活発化し、活動と学びの一体化が図れるのではないかと考えられる。

また、サンバでは具体的な歌唱曲が示されたが、ほかのリズムの曲についても例を示し、表現活動に繋げれば、さらに児童のリズムや楽器に対する興味や関心を高めることができるとも考えられる。

#### 4 児童の理解の深化と授業満足度

##### (1) 児童への発問

研究協力員である2名の教諭は、児童の理解の深化を図るために、発問に答える際、そのように考える根拠を児童に具体的に言わせる指導を徹底した。

根拠となるものは前述のとおり、〔共通事項〕に挙げられている「音楽を形づくっている要素」である。ねらいに沿った要素をいくつか取り上げ、その要素を聴き取ったり感じ取ったりする活動から授業を組み立てていった。

実際の児童への発問された内容をここに記載する。なお、レベルについては、児童の知覚や感受を導き出すために工夫された発問の段階を表す。

##### ア 発問1

レベル1 「曲の山場はどこでしょうか？」

レベル2 「歌詞をじっくり読んで、1番2番に共通している歌詞はありますか？どうして共通する歌詞があるのでしょうか？」 「曲名との関係はありますか？」

レベル3 「その部分の旋律の特徴（強弱・音の高低）はどうなっていますか？」

レベル4 「曲の山場はどの部分でしょうか、そしてその理由は何だと思えますか？」

##### イ 発問2

レベル1 「曲の山場を盛り上げるためにはどのように演奏したらいいですか？」

レベル2 「                    〃                    その部分の強弱はどのようにしたらいいですか？」

レベル3 「                    〃                    その部分の前はどのように演奏したらいいですか？」

レベル4 「                    〃                    強弱の違いをつけるだけでいいですか？」

##### ウ 発問3

レベル1 「この曲から、どんなことがわかりますか？」

レベル2 「この曲には、どんな楽器（打楽器・管楽器・弦楽器）が使われていましたか？」

レベル3 「この曲から楽器のほかに、どんな音が聞こえましたか？」

レベル4 「この曲の速さやリズムはどうでした（速度・強弱・細粗など）？それらの雰囲気からどんな感じがしましたか？」

レベル5 「この曲は、どのような理由でサンバだと思えましたか？」

##### (2) 授業理解度・満足度

ア 授業理解度および授業満足度について、次のようにして調査した。

###### ①方 法

研究授業直後の聞き取り調査及びワークシート記載内容について点検し、総合的に評価する。

###### ②検 証

収集した資料について研究協力員との協議の上で判断する。

イ 聞き取り調査による検証

授業時間の十分な確保と担当教諭の負担増を避けるために、特別なアンケート用紙を使用した調査は実施せず、授業終了後に、無作為に指名した児童に対し、授業の理解度や満足度（充実度）について直接聞き取り調査を実施した。

質問内容は次の①～③である。

- ①（自分は・友達は）意見発表を多くしましたか。【はい・以前とかわらない・いいえ】
- ②今日の授業で勉強したことは何ですか。【明確な内容の回答があるかどうかで判定】
- ③授業は楽しい（充実・満足）と感じましたか。【はい・以前とかわらない・いいえ】

回答の サンプル数は 40/70（人）であり、肯定的回答は次のとおりである。なお、括弧内は通常授業後の調査である。

- ①はい 36（25）
- ②はい（明確な内容の回答がある） 33（20）
- ③はい 39（32）

上記の①～③をまとめると、肯定的回答は次のようになる。

77.1%（聞き取り調査による理解度・満足度：目標 70%以上）

前述の理由でサンプル数は少ないが、授業の雰囲気や質問に答える様子から、児童の授業への満足度（充実度）が十分に感じられた。

ウ ワークシート記載内容による検証

研究協力員である2名の教諭は、以前よりワークシートを活用し、児童の学びの充実や授業改善に役立てている。

ここでは、研究授業後、児童の記述にどのような変化が見られ、どのように学びが深まったかについて検証する。

① 大村小学校 藤田教諭が使用しているワークシート

シンプルであるが、新しい気付きを付加するスペースも十分にあり、児童にとって使いやすいワークシートである。

かんしょうノート  
年 組 名前( )

☆世界のいろいろな楽器やリズムを楽しもう。

種類	楽器・リズム・音	感じたこと
サンバの音楽 (ブラジル)		----- ----- -----
杖鼓のえんそう (朝鮮半島)		----- -----



② 富の原小学校 吉田教諭が使用しているワークシート

音楽学習カード 6年4組 名前		
楽曲名	明日を信じて	
月日	今日のめあて	パート別練習の感想
11月25日(木)	自分のパートの音を正しく覚える?因	なかなかパートの音を歌いにくいので、気をつけてみたいと思ってる。 リコーというのを録音機使ってる。今回はウエエの話し歌わておて
11月29日(月)	語りかけるようにうたおう	表情さながらと言事もめあてにして、がんばりました。でも、男の子がさしでたりして、耳も言え聞かなかたりしたので、今度はちゃんと注意をしながら、なのでめあてを守りたい。リコーはいい
12月2日(金)	仰の部分をかけ合いをきれいにひびかせよう。	きれいにひびかせながら歌えたので、良かったです。 毎回リコーとてかまは、てくいていおね
12月6日(火)	曲の山を知って強く歌おう?	とても歌い方は良かったので、次の時もがんばりたいです。 し、つとめなリコーしてね。指示はよく
12月9日(金)	曲の山を盛り上げるためにどのように歌えたらいいか考えよう。	自分の所をみんなの意見で歌え歌え、たすいんじのめあてとてまじ。でも、中々かあったので、歌うのはかまは、てくいていおね。みんなが、たすいんじのめあてとてまじ。みんなが、たすいんじのめあてとてまじ。 男5 6人 25 10人 男5 6人 25 10人

音楽学習カード 6年4組 名前		
楽曲名	明日を信じて	
月日	今日のめあて	パート別練習の感想
11月25日	自分のパートの音を正しく覚える。	音を正しく覚えることほできたけれど、もう少し大きい声出すやと思ってる。自分のめあてを立っている。
11月29日	語りかけるようにうたおう(因)	語りかけるように、やさしく歌えました。これはいいです。表情はいいです。大きい声で、歌えたいので、めあてを立っている。
12月2日	仰の部分をかけ合いをきれいにひびかせよう。	かけ合いの部分をはきれいに歌えたいけれど、おぼろげな部分、ド、より強くうた、てまじ。強弱を、よくつかまえて。
12月6日	曲の山を知って強く歌おう。	強く歌えることができなかったけれど、曲の山を知ることできた。とてもめあてにめあてにして、がんばりました。
12月9日	曲の山を盛り上げるためにどのように歌えたらいいか考えよう。	曲の山を盛り上げるために、(歌えたい)みんなの意見で、歌えたい。みんなの意見で、歌えたい。みんなの意見で、歌えたい。 強弱と上手につかまえて、ていおにうたえたい。

③ 児童の記入状況の変化

- 空白をすべて埋めようとする児童が増えた。
- めあてにつながるキーワードを入れて、文章表現する児童が増えた。
- 「音楽を形づくっている要素」の内容に触れ、感想を記入する児童が増えた。
- 友人と相談しながら、記入に適切な語句を探す児童が増えた。

- ・語彙力が身に付き、単語だけによる感想が少なくなった。
- ・いろいろな見方で音楽をとらえる児童が増えた。
- ・友人との比較をしながら、自分の取組を客観的に自己評価する児童が増えた。
- ・取組や学びについての自己評価で、高い評価をする児童が増えた。
- ・気付きや感想を文字に書き表すことで児童の曖昧だった理解が明確化され、音楽科の学習の整理に効果的であったことに加え、音楽科以外の言語能力も高まっている。

#### エ 検証結果

- ・言語活動を意識した授業では、児童の活発な意見交換はねらいと直結しており、児童の表現への工夫や鑑賞の能力の向上につながったと思われる。
- ・聞き取り調査による児童の学習内容の深化と満足度は、改善授業後に高まった。
- ・ワークシートの内容は、児童の学びが反映されており、取組状況も改善された。

#### IV まとめ

以上により、仮説1および2の妥当性については、実践授業を通じた実証を得ることができたのではないかと考える。この研究成果を、音楽教育を通じて子どもたちの「豊かな情操」の育成に尽力している多くの教員の参考にしていただければ幸いである。

研究テーマであった「言語活動」は、学習指導要領における各教科を貫く重要な改善の視点である。この研究では音楽科の〔共通事項〕と関連付け、「音楽を分かる」「音楽を知覚・感受する」手段として「言語活動」の活用を取り上げ、その効果的な活用法について、提案と検証を行った。しかし、「歌唱」では歌詞に注目し、その内容を理解し、言葉を美しく表現するために言語活動を活用することも考えられ、「器楽」では演奏法や運指法について友人に分かりやすく伝えるなど、国語科で培った能力や言語活動を取り入れることも考えられる。教科の壁を越えた充実した「言語活動」は、コミュニケーション力を高め、「生きる力」を育成するための重要なツールである。

このツールが十分に機能するために、簡潔で分かりやすいめあてを示し、めあてを達成するために必要な「学習活動」、そして言語活動を活発化させるための具体的な「発問計画」を学習指導案に記載することで、改めて、指導観等の確認や発問のチェックをすることが大切であるということも分かった。

今後さらに、教科の目標を達成するための指導方法や教材開発の研究を続け、学校現場の参考となる多くの情報の提供ができるよう、努めていきたい。

#### V おわりに

今回、研究協力員として御協力いただいたお二人は、以前より音楽教育の様々な研究をされており、長年にわたり充実した授業実践をしてこられました。この調査研究にあたり多忙な中での学習指導案の作成や研究授業の実施をお願いしましたところ、快く御協力いただきましたことに心から感謝申し上げます。先生方の授業への熱心な取組姿勢を心より尊敬いたしますとともに、先生方の優しい愛情に包み込まれた子供たちには、音楽を愛する心が育っていると強く感じました。

最後になりましたが、この調査研究のまとめができましたことについて、大村小学校 藤田ゆか先生、富の原小学校 吉田裕子先生のお二人はもちろんのこと、校長先生をはじめとする両校の先生方、お世話いただいた大村市教育委員会の皆様方に心よりお礼申し上げます。

長崎県教育センター  
 高校教育研修課 指導主事 浅井 隆